

第29回外務省政策会議 (概要記録)

日時：5月19日 午前8：00～8：45

場所：衆議院第2議員会館 第1会議室

出席議員の概数：20名程度

議題：

- (1) 日中韓外相会議の報告
- (2) NPT運用検討会議の中間報告
- (3) その他

第1 外務省からの説明

1 日中韓外相会議の報告【事務方】

配布資料に添って説明。

2 NPT運用検討会議の中間報告【事務方】

配布資料に添って説明。

第2 質疑応答

1 日中韓外相会議の報告

(質問・コメント)

- ・ 中国との間で海洋活動、ヘリの近接事案について提起したとのことだが、その際に映像や客観的証拠を開示したのか。
- ・ 本年は日韓併合100周年ということもあり、セレモニーのようなものを検討してはどうか。
- ・ 日中韓三か国外相が仏国寺を視察したとあるが、何の意味があるのか。
- ・ 哨戒艦沈没事案について、調査団をはじめ各国からも情報収集をしっかりと行う必要がある。
- ・ 日中外相会談のやりとりについて、どういうやりとりを事務的に行っているのか。
- ・ 日中韓外相会議では金正日の訪中の話はあったか。また、哨戒艦事案についてのやりとり如何。
- ・ 日韓外相会談については、安重根氏の遺骨の件は取り上げられたのか。

(回答：福山副大臣 / 事務方)

- ・ ヘリの近接事案については、事務レベルでは何度も抗議を行っているが、情報収集能力に係ることもあるので証拠等は示していない。外相レベルでも示していない。
- ・ 日韓併合100周年については、何らかの未来志向のメッセージを発出することを検討中。
- ・ 仏国寺の視察は韓国側でアレンジしたもの。
- ・ 哨戒艦事案については、まだ調査結果が出ていないので冷静に見守るべき。各国とはもちろん連携している。
- ・ 日中間の懸案事項についてはこれまで事務レベルで何度も折衝を行っており、今回大臣から、懸案の処理を急ぐ観点から取り上げていただいた。
- ・ 日中韓の場では、金正日の訪中について説明はなかった。
- ・ 日中韓において、哨戒艦事案については、調査を冷静に見守ることで一致した。
- ・ 安重根氏の遺骨については日韓外相会談で一言やりとりがあり、岡田大臣から日本もできる限

り調査に協力したい旨発言した。

2 NPT運用検討会議の中間報告

(質問・コメント)

- ・ 日本はしばしば「唯一の被爆国」との表現を使用しているが、世界においては核実験等による被爆者も数多く存在するところ、今後も「唯一の」という表現を使用していくのか。
- ・ イランのアフマディネジャド大統領の演説において、米国の核兵器が配備されているとして名指し発言した国の中に日本も含まれていたが、その後の状況いかに。また、NGOの間では問題になっていないのか。
- ・ 今後、NPT運用検討会議に岡田外務大臣が出席する場面はあるか。中東決議に関しては日本政府も米国のダブルスタンダードを指摘すべきであり、各国の支持を得るためにも必要。日本は中東決議についてはどのようなスタンスをとっているのか。

(回答：事務方)

- ・ NPT運用検討会議における福山副大臣の演説をはじめ、政府としては「唯一の戦争被爆国」との表現を使用している。
- ・ アフマディネジャド大統領演説の同発言部分をステートメント等で取り上げた国はなく、NGOからも特に反応はない。他方、我が国としては同発言を看過できないため、翌4日の福山副大臣の演説で、同発言に関し非核三原則の堅持を改めて強調したところ。
- ・ 中東決議に関しては、米国はクリントン国務長官が現実的な措置を求める旨演説し、G8でも現実的な措置をとることで合意している。要はこの現実的措置の中身であろう。NPT運用検討会議の残りの会期は2週間であり、我が国としても会議での合意に向け取り組んでいきたい。

3 その他

(コメント)

- ・ 普天間問題について、先般意見交換した米政権関係者は、民主党政権への懸念を有している模様。また、沖縄の海兵隊の抑止力をどう説明していくか考える必要がある。

(回答：武正副大臣 / 吉良政務官)

- ・ 意見は承った。

(了)